かゝしき神を崇敬なのゝなしまして正音を一ツ宮にうつめ奇
生塚と名付たり　ゆゑ有様をきゝのまに中上られ鬼を
もゝまき（いし）玉之き義光公も正心みされめして正蔵隠りて
其春公に今に浴く御とゝれなりもは　いて秀頼公初も
むきの之き祈に家康公の正ゆゑ　ゆゑ　義光より大河
原の名馬を信長公進上ある時御所家康公冥罰に狐
成あらはし夫より業義光に怨恨の脳ゆゑひかさし
義光公常く思召（思）何卒家康公の御厚慰報し奉ん
為の刑　文禄三年関白秀頼公真州御出陣の御家康
公も御出られ折ゆ義光の四男左馬之助陣を供ひ更へ

家康公日頃の御君賞無存知則次男左馬之助
正前忠義御申ゝ　家康より正頼義ゆ家康公斜な
らぬ恨あらはし生方北条へとゝ又国持の子息を
今度投賞北和ゆゑ　則正名字の上の字を賜り家親
と名乗ゝ陸に駿河守に成ゝ名ゆ恩を捨
今度命津に一味の義ゆ　ゆゑ定ゝ恨の御計
略あるゝ御ゝられ人ゝ　ゆゑ　ゆゑ色を御ゝ
みゝり